

神奈川県立秦野支援学校 学校運営協議会 開催結果

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催しました。

会議名称	令和7年度 秦野支援学校 第3回 学校運営協議会
開催日時	令和8年2月27日 9時30分～11時40分
開催場所	秦野支援学校 落合校舎2階会議室
出席者	運営協議会委員(本校校長含む) 8名 ※欠席者2名 事務局教職員 13名
会議資料	第3回秦野支援学校運営協議会 次第、学校評価アンケート結果 学校評価報告書、各部門課程・グループの取組と達成状況・課題
議事録	<p>1 学校長挨拶</p> <p>2 学校評価アンケートの結果報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年から設問と回収方法を変え、保護者の「わからない」は減少傾向となり、職員の回答率は100%になった。 ・概ね肯定的な数値が示されたが、項目ごとの違いや部門課程によるバラツキの傾向等は分析して改善につなげたい。 ・「わからない」の回答の減少に向けての発信、共有の工夫は今後の課題である。 <p>3 各部門・課程・校務グループの取組と達成状況・課題の報告(学校目標の視点1～5に沿っての報告)</p> <p>(視点1) アセスメント結果を基に指導検討が行われた。より具体的な支援につなげることが課題。ICT活用は様々な指導実践がなされたが、より広く共有していくことが必要。</p> <p>(視点2) 各部門・課程と専門職との連携により、よりよい指導につなげた。主体的な学びを引き出す指導支援を継続的な取組とするためのチームとしての仕組み作りが課題である。</p> <p>(視点3) 保護者や地域への情報発信を様々な方策で行った。情報のニーズの把握が引き続き課題。授業や活動場面において就労準備ピラミッドの視点を取り入れた指導に取り組んだ。</p> <p>(視点4) 交流は活発に行われた。引き続き計画的な取組をすすめる。地域への発信は様々な手立てで行い、さらに積極的な発信をすすめる。センター的機能の取組としては、従来の取組を基に、地域の学校教員のニーズを汲み取り、教員一人ひとりの意識を高めていくことが大切。</p> <p>(視点5) 想像力、情報収集力、事務処理能力の向上を意識して各取組を行った。同僚性を育む仕掛けの工夫を模索していく。</p> <p>4 質問、意見、感想 等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域コンビニで福祉施設が栽培した花の苗を販売していた。個人経営店など販売可能な場所を探せるのではないかと。駅前広場や大学の文化祭でのブース出展が可能であり、学生とのコラボも考えられる。 ・対面販売か常設か、商品の量、平日か休日かなど、具体的な条件が分かれば、地域とつながって販売するための方法を連携して考えていきやすい。 ・他県では、学校名を記したペットボトルを横断歩道に置く取組や、サッカーチームと協力しコースターを制作するなど、地域交流について積極的な取組例がある。 ・作業学習は製作から販売まで行って完結するので、販売場所の確保は大切である。地域のフロントに出ていくことは、グランドデザインに基づいた大切な取組である。 ・風通しの良い職場づくりには対面で話す機会が重要。学校の取組例はあるか。⇒ 実践報告会に、職員同士が気軽に話せる場を設けた取組を紹介。 ・他県では高校2年生で一日体験実習を実施している例がある。このような取組もできるとよい。 ・20歳を超えると学校とのつながりが薄くなる。企業では退職者に理由を聞いて対応しているが、学校でも3年後の生活を保護者がイメージを持てるよう情報提供できるとよい。 ・卒業後、相談先が分からず危険なところと関わってしまうことが心配。企業としてもケアを大切にしたい。 ・子どもは、必要だと感じないことは、学校で学んでも家庭で実際にやってみようとなし。20歳以降の生活や姿を具体的にイメージできる指導が大切。 ・ICT活用として、議事録作成のためAIアプリを導入し検証している例がある。 ・就労選択支援が開始されるとアセスメントの回数が増え、支援学校との連携がより重要となる。保護者への情報発信も必要である。 ・夏の学習会で保護者向けに説明する予定である。 ・ワンポイント実習ができるとよい。当社は受け入れ可能である。 ・学校評価アンケートについて、目標値はあるか。また、働きやすい環境に関する保護者回答の「わからない」が6割だが、業務改善の目的は児童生徒と向き合う時間の確保であり、「わからない」が6割の結果でよいのか ⇒ 働き方改革の目的が伝わっていない点は反省である。数値目標の設定は重要である。 ・授業実践報告会に参加したが有意義であった。細かな反応を読み取りコミュニケーションを図る指導が印象に残った。指導において、音楽や自然を感じる機会はあるか。⇒ 音楽活動・自然を活用した学習は共に行っている。iPadを使った音楽活動で脈拍の変化を捉えたり、音による表出を促したりしている取組もある。 ・小中学校との交流は、iPadなどを用いたりリモート交流で、日常的な交流に拡がるとうい。 <p>5 事務連絡 学校運営協議会は来年度も今年度と同様、計3回の開催予定。</p>

